

表3: 女性における重症度別の薬物に対する自己効力感スケールとSOCRATES-8Dの変化:待機期間前後

		待機前		待機後		z	P		
		平均点	標準偏差	平均点	標準偏差				
中等症群 (N=32)	薬物依存に対する自己効力感スケール	全般的な自己効力感 合計	20.09	4.09	21.03	3.74	-1.373	0.170	
		個別場面の自己効力感 合計*	57.23	14.23	61.33	13.61	-2.236	0.025	
		総得点	75.29	17.15	81.84	16.65	-1.944	0.052	
	SOCRATES-8D	病識	25.55	5.36	25.63	5.22	-0.114	0.910	
		迷い	13.00	2.70	13.48	3.18	-0.829	0.407	
		実行	31.38	5.24	32.00	6.21	-0.891	0.373	
		総得点	70.35	10.11	70.91	12.13	-0.347	0.729	
	重症群 (N=99)	薬物依存に対する自己効力感スケール	全般的な自己効力感 合計	19.54	4.42	20.21	3.95	-2.161	0.031
			個別場面の自己効力感 合計***	54.02	16.15	57.63	15.32	-4.057	<0.001
			総得点***	72.63	19.65	77.39	18.65	-3.884	<0.001
SOCRATES-8D		病識	29.99	4.10	29.89	4.05	-0.052	0.958	
		迷い	16.00	2.52	15.66	2.76	-1.004	0.316	
		実行	33.37	5.38	33.46	5.41	-0.555	0.579	
	総得点	79.49	9.70	79.20	10.01	-0.557	0.577		

SOCRATES-8D, Stages of Change Readiness and Treatment Eagerness Scale, 8th version for drug dependence

\* P<0.05 (exact significance, two-tailed)

表4: 女性における重症度別の薬物に対する自己効力感スケールとSOCRATES-8Dの変化:自習ワークブック前後

		自習前		自習後		z	P		
		平均点	標準偏差	平均点	標準偏差				
中等症群 (N=32)	薬物依存に対する自己効力感スケール	全般的な自己効力感 合計	21.03	3.74	21.00	4.76	-0.877	0.380	
		個別場面の自己効力感 合計	61.33	13.61	62.13	14.03	-1.083	0.279	
		総得点	81.84	16.65	82.69	17.34	-1.034	0.301	
	SOCRATES-8D	病識**	25.63	5.22	29.36	4.45	-3.307	0.001	
		迷い***	13.48	3.18	15.00	2.78	-2.770	0.006	
		実行***	32.00	6.21	34.97	5.17	-3.878	<0.001	
		総得点***	70.91	12.13	79.37	10.72	-3.649	<0.001	
	重症群 (N=99)	薬物依存に対する自己効力感スケール	全般的な自己効力感 合計	20.21	3.95	20.22	3.66	-0.394	0.694
			個別場面の自己効力感 合計	57.63	15.32	58.65	15.71	-1.138	0.255
			総得点	77.39	18.65	78.80	18.76	-1.469	0.142
SOCRATES-8D		病識***	29.89	4.05	30.85	4.27	-3.877	<0.001	
		迷い**	15.66	2.76	16.22	2.95	-2.812	0.005	
		実行**	33.46	5.41	34.38	5.11	-2.989	0.003	
	総得点***	79.20	10.01	81.36	10.67	-4.358	<0.001		

SOCRATES-8D, Stages of Change Readiness and Treatment Eagerness Scale, 8th version for drug dependence

\* P<0.05, \*\* P<0.01, \*\*\* P<0.001 (exact significance, two-tailed)

薬物依存に対する自己効力感スケールとSOCRATES-8Dの変化:自習ワークブック前後

表5: 女性における重症度別の薬物に対する自己効力感スケールとSOCRATES-8Dの変化:教育プログラム前後

		教育P前		教育P後		z	P	
		平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
中等症群 (N=32)	薬物依存に対する自己効力感スケール	全般的な自己効力感 合計	21.00	4.76	22.13	3.22	-1.558	0.119
		個別場面の自己効力感 合計	62.13	14.03	63.63	10.65	-0.553	0.580
		総得点	82.69	17.34	85.41	12.68	-0.731	0.465
	SOCRATES-8D	病識	29.36	4.45	29.77	3.91	-1.187	0.235
		迷い	15.00	2.78	15.34	2.56	-0.650	0.516
		実行	34.97	5.17	33.78	4.90	-1.398	0.162
		総得点	79.37	10.72	78.77	9.56	-0.439	0.661
重症群 (N=99)	薬物依存に対する自己効力感スケール	全般的な自己効力感 合計***	20.22	3.66	21.07	3.57	-3.681	<0.001
		個別場面の自己効力感 合計	58.65	15.71	60.66	12.29	-1.527	0.127
		総得点*	78.80	18.76	81.71	14.76	-2.107	0.035
	SOCRATES-8D	病識**	30.85	4.27	31.72	3.31	-3.179	0.001
		迷い**	16.22	2.95	16.82	2.69	-2.609	0.009
		実行**	34.38	5.11	35.13	4.95	-2.863	0.004
		総得点**	81.36	10.67	83.73	9.88	-3.470	0.001

SOCRATES-8D, Stages of Change Readiness and Treatment Eagerness Scale, 8th version for drug dependence

教育P, 教育プログラム

\* P<0.05, \*\* P<0.01, \*\*\* P<0.001 (exact significance, two-tailed)

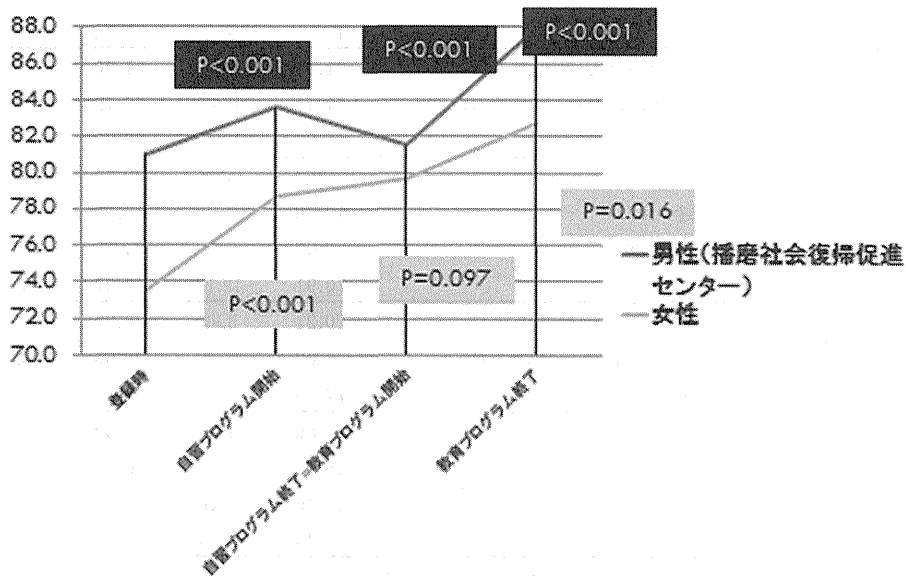


図1: 自己効力感尺度得点の変化に関する性差

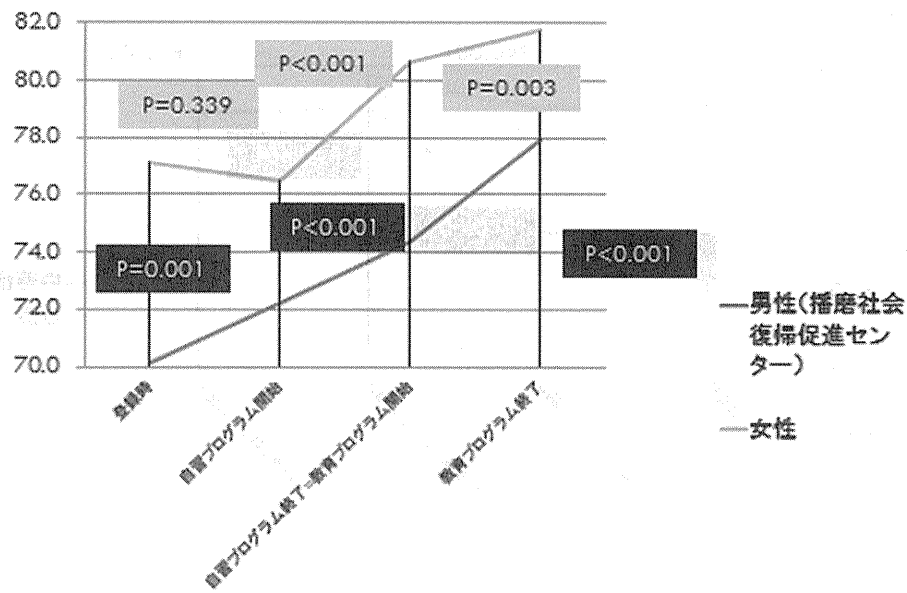


図2: SOCRATES-8D得点の変化に関する性差

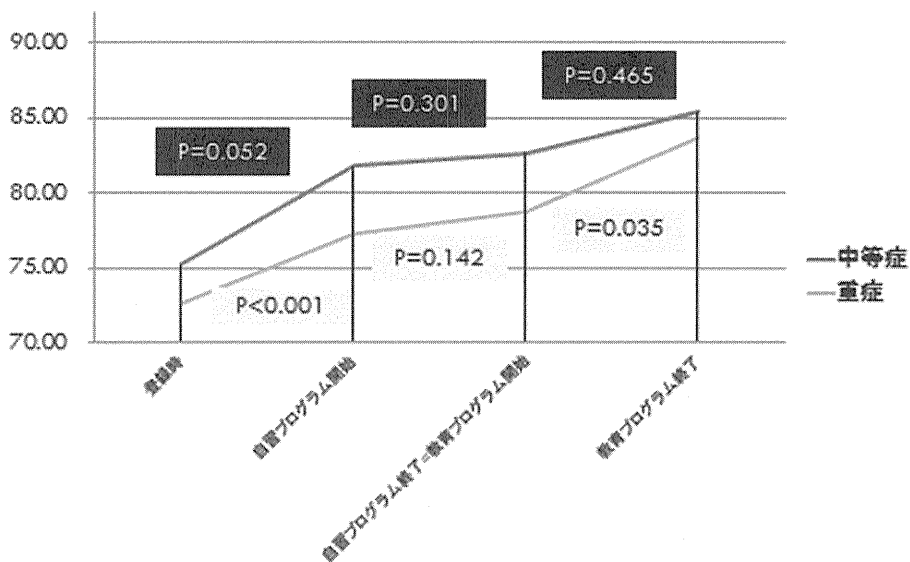


図3: 女性における重症度別の自己効力感スケール得点の変化

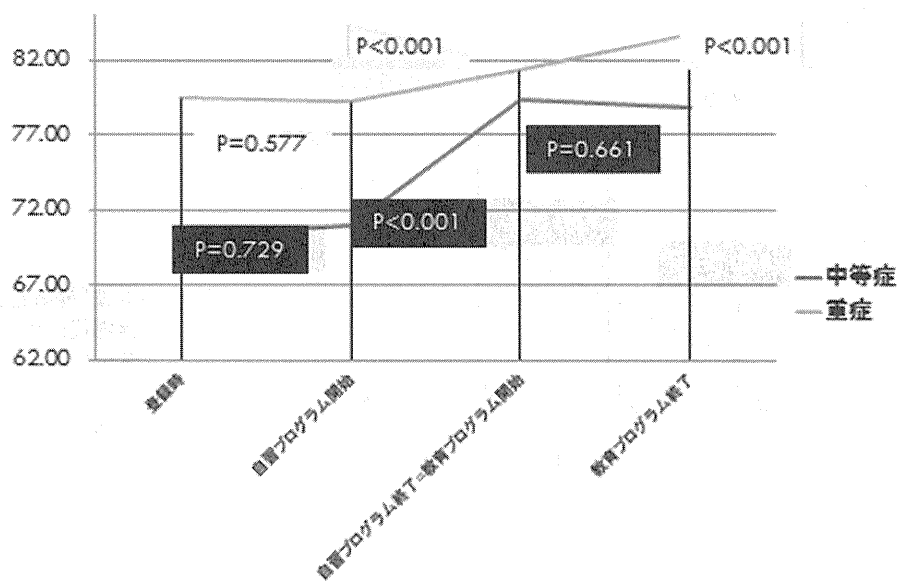


図4: 女性における重症度別のSOCRATES-8D得点の変化

(別掲5)

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
和田清、尾崎茂、近藤あゆみ、嶋根卓也	I 物質依存 2. わが国の物質乱用・依存の疫学と動向	福居顕二	専門医のための精神科臨床リュミエール 26	中山書店	東京	2011	pp. 14-27
近藤あゆみ	薬物依存症者の家族がもつ多様なニーズを満たすための家族心理教育プログラム開発に関する研究—薬物依存症者をもつ家族の支援を行う関係機関職員を対象とした調査結果から—	新潟医療福祉大学社会福祉学部	社会福祉の可能性	株式会社相川書房	新潟	2011	3-12

## 雑誌

発表者名	論文タイトル名	発表紙名	巻	ページ	出版年
和田清、小堀栄子	薬物依存と HIV/HCV 感染—現状と対策—	日本エイズ学会誌	13	1-7	2011
和田清、嶋根卓也、船田正彦	わが国における薬物乱用・依存の最近の特徴	日本社会精神医学会雑誌	20	407-414	2011
嶋根卓也	思春期における薬物乱用の実態と対策	産婦人科治療	10 3	144-150	2011
嶋根卓也	思春期における薬物乱用の実態と予防	思春期学	29	13-18	2011
嶋根卓也	薬局薬剤師を情報源とする向精神薬の乱用・依存の実態把握に関する研究	埼玉県薬剤師会雑誌	37	17-21	2011
嶋根卓也	薬剤師から見た向精神薬の過量服薬	精神科治療学	27	87-93	2012
Matsumoto T, Chiba Y, Imamura F, Kobayashi O, Wada K	Possible effectiveness of intervention using a self-teaching workbook in adolescent drug abusers detained in a juvenile classification home	Psychiatry and Clinical Neurosciences	65	576-583	2011
松本俊彦、尾崎茂、小林桜児、和田清	わが国における最近の鎮静剤（主としてベンゾジアゼピン系薬剤）関連障害の実態と臨床的特徴—覚せい剤関連障害との比較—	精神神経学雑誌	11 3	1184-1198	2011
松本俊彦	薬物依存臨床から見えてくる精神科薬物療法の課題—「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調	精神科治療学	27	71-79	2011

	査」の結果より—				
松本俊彦, 今村扶美, 小林桜児, 和田 清, 尾崎士郎, 竹内良雄, 長谷川雅彦, 今村洋子, 谷家優子, 安達泰盛	PFI (Private Finance Initiative) 刑務所における薬物依存離脱指導の効果に関する研究: 自習ワークブックとグループワークによる介入—第 1 報—	日本アルコール・薬物医学会誌	46	279-296	2011
小林桜児, 松本俊彦, 今村扶美, 和田 清, 尾崎士郎, 竹内良雄, 長谷川雅彦, 今村洋子, 谷家優子, 安達泰盛	PFI (Private Finance Initiative) 刑務所における薬物依存離脱指導の効果に関する研究: 自習ワークブックとグループワークによる介入—第 2 報: 重症度別による効果の分析—	日本アルコール・薬物医学会誌	46	368-380	2011
松本俊彦	認知行動療法を取り入れた包括的外来治療プログラムの必要性	日本社会精神医学会雑誌	20	415-419	2011
松本俊彦	依存・嗜癖における強迫性・衝動性と薬物療法	精神神経学雑誌	11 33	999-1007	2011
松本俊彦, 嶋根卓也, 尾崎茂, 小林桜児, 和田 清	乱用・依存の危険性の高いベンゾジアゼピン系薬剤同定の試み: 文献的対照群を用いた乱用者選択率と医療機関処方率に関する予備的研究.	精神医学	54	201-209	2012
庄司 正実	児童自立支援施設における薬物乱用の動向	日本社会精神医学会雑誌	20	393-398	2011
森田展彰, 岡坂昌子, 谷部陽子, 近藤あゆみ, 高橋郁絵, 岩井喜代仁, 栗坪千明, オーバーヘイム・ポール, 福島シヨーン, 鈴木文一, 小松崎未知	薬物問題を持つ人の家族に対する心理教育プログラムの研究—長期的な再発防止・回復にむけた家族のスキルトレーニング—	日本アルコール問題関連学会雑誌	13	149-158	2011

平成23年度厚生労働科学研究費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬物乱用・依存等の実態把握と  
薬物依存症者に関する制度的社会資源の現状と課題に関する研究  
(H23薬一般-014)

研究報告書  
(総括研究報告書＋分担研究報告書)

主任研究者：和田 清（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所）

2012年3月31日 発行

